

山行NO NO. 1787 (Mさん、入会歓迎山行)  
日時 2018.04.06 (金) 晴・強風  
山域 奥秩父・大菩薩嶺 (2057m)  
コース みそぎ沢登山口 8:15 - 丸川荘 9:52 - 大菩薩嶺 11:51 - 唐松尾根 - 昼食 12:10 ~  
35 - 上日川峠 13:23 - みそぎ沢登山口 14:21  
標高差 上り みそぎ沢登山口約930m ~ 大菩薩嶺2057m = 約1127m  
下り //  
参加者 GT, KH, MM, HT, GM, MM

## 延々と続く氷道

6日(金)は天候がどうなるか分からず、前日の夕方になって山行決定。  
ただし、私(合谷)は中止と勘違いしてしまい、当日の早朝5時前の後藤さんから電話があり、慌てて山行を準備。  
出発からつまずいてしまったので、山で怪我でもしたら大変と思い、気合を入れ直して自宅を出発。  
甲州の美しく満開の桃畑を楽しみながら、8時過ぎに丸川峠入口の駐車場に到着。  
ここで、Lから行程の説明とMさん新入会歓迎山行の話があった。

満開の桃花



そこから長兵衛小屋までの大菩薩嶺線は通行止め、平日のためか駐車場に車は他に1台しか止まっていなかった。



大菩薩嶺線の通行止め



駐車場の登り口案内板

8:15、駐車場を出発。

出発してすぐに荷揚げをしているオジサンに会った。

丸川荘の主人で、年齢は後藤さんとほぼ同じぐらいで、12キロの荷物を背負っていた。

(今回の登山で人に会ったのはこのオジサンが最初で最後だった)

オジサンから丸川峠から大菩薩嶺まではまだ雪が溶けていないので、アイゼンがないと厳しいと助言があった。

(今日、我々はアイゼンの準備をしていなかったもので、もし厳しければ途中で引き返しもあり?)  
また、この時期は雪の上に桃花が飛んでくることがあるということも話していたが、今回は桃花を山で見かけることはなかった。ただし、これから桃花は散り始めるので、そうしたら山まで桃花が飛んでくるのかもしれないと思った。



荷揚げをしている丸川荘のオジサン



登り始めてしばらくすると、かなりの急登になったが、休息もあまりせず、ひたすら登り続けた。いいペースで登ったので、丸川荘（丸川峠）には9：50に到着。下で会ったオジサン（丸川荘の主人）は来ないので、この小屋でコーヒーを飲むのはあきらめて、大菩薩嶺に向けてすぐに出発。



丸川峠までの急登



丸川荘

丸川荘から大菩薩嶺までは雪が溶けて凍った道の連続でコースはアイゼンなしで歩くには大変危険であった。(丸川荘のオジサンが話していた通り)

今回は後藤さん以外はアイゼンを持って来ていなかったの(アイゼンが必要とは計画書に記載がなかった)、初心者の水口さんと合谷が後藤さんのアイゼンを片方ずつ借りて、この難所を切り抜けた。

それにしても、女性陣3人はアイゼンもつけず、この滑る氷道をスイスイと登っていくのには驚きました。

それと風の音がゴーゴーと凄かった。氷道は木々に囲まれていたので、風の音だけで風にあおられることはなかったのが幸いだった。



丸川荘から大菩薩嶺までの氷道

丸川荘を出発してから2時間（コースタイムでは1時間半）、何とか大菩薩嶺に到着。  
それにしてもなかなか厳しいコースでした。  
風が強いので、ここでは記念写真だけにして、昼食は下ってからということで出発。



大菩薩嶺頂上  
座っている方が新入会のMさん

大菩薩嶺から唐松尾根に入ると、南側斜面となり、雪が全くない。  
同じ山でもこんなにコースコンディションが変わるとは驚きでした。  
女性陣から早く昼食を食べたいとの要望もあり、少し下った風の当たり難い場所で昼食。  
私は朝慌てて準備をしたので、ビールとつまみを忘れたのが残念だった。





美味しい昼食



昼食後、福ちゃん荘を通過して、上日川峠まで一気に下った。  
登ってくる人は誰もいない、こんなメジャーな山で人に全く合わないというのは非常に珍しいような気がした。

それにしても、この下り道は天然のブナ、ミズナラが素晴らしく、歩いていて気持ちがいい。  
下り終わった千石平に赤ずきんをまとったお地蔵さんがあり、無事に登山できたことに感謝。



雨にも降られず、閑散とした大菩薩嶺を十分に堪能できたいい登山でした。  
後藤さん色々とお手数をおかけしましたが、いい登山ができました







おわり



